

dBTechnologies

VIO S218







アクティブ バスレフ セミホーンロード サブウーファー

取扱説明書











安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災 / 感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災 / 感電の原因となります。 定期的（年 1 回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災 / 感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流 100 ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。 火災 / 感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20 cm 以上）離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災 / 感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災 / 感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災 / 感電の原因となります。 内部の点検 / 修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災 / 感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>指示</p>	<p>設置の際は、資格や経験を持った人（専門業者）に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井 / 壁 / 柱 / 床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p>
	<p>注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災 / 感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>
 <p>指示</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災 / 感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災 / 感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>注意</p>	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
別売りアクセサリー.....	4
本書の表記.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
ユーザー登録について.....	5
商標および著作権に関して.....	5
設置上の注意.....	5
アフターサービス.....	5
本機の概要.....	6
専用台車による本機の運搬.....	6
設置方法.....	7
エンドファイヤーとカーディオイドの構成.....	7
ファイバーを使用して VIO モジュールの床置設置.....	8
各部の名称.....	9
電源パネル.....	9
コントロールパネル.....	9
電源および外部機器との接続.....	11
電源と電源リンクの接続.....	11
オーディオ信号の接続.....	11
RDNet の接続.....	11
リモートコントロール.....	12
適合ケーブル.....	12
トラブルシューティング.....	12
dBTechnologies Composer ソフトウェアについて.....	13
AURORA NET ソフトウェアについて.....	13
各種ダウンロード.....	14
AURORA NET ソフトウェアのダウンロード.....	14
dBTechnologies Composer のダウンロード.....	14
アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先.....	14
F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア).....	14
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	14
ソフトウェアの使用に関して.....	14
仕様.....	15
一般.....	15
寸法図.....	16

はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO S218 をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書（日本語）は、TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書（英語）については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"VIO" の項目を選択し、上段 "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- スピーカー本体 (VIO S218)..... × 1
- Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コード..... × 1
- 取扱説明書（本書、保証書付き）..... × 1

別売りアクセサリー

輸送や本体設置のために下記の別売りアクセサリーが、ご使用になれます。

- DRK-212 : フライバー (VIO L212 対応 スタック設置用)
- DRK-210 : フライバー (VIO L210 対応 スタック設置用)
- DO-VIOS218 : トローリー (専用運搬台車)
- FC-VIOS2 : 移動用保護カバー (VIO S218 2 台用)
- DPTC-70L : 電源 LINK 用ケーブル
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル (70 cm)
- DPTC-160L : 電源 LINK 用ケーブル
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル (160 cm)
- DPTC-1000MJP : メイン電源用コード
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コード (10 m)
- RDC-45F : RJ45-XLR(メス) 変換ケーブル (6 cm)
- RDC-45M : RJ45-XLR(オス) 変換ケーブル (6 cm)
- リモート機器 (ラインアレイ時の制御用)
RDNet Control2 : 2 系統 / 最大制御数 64 台 (1 系統 / 32 台)
RDNet Control8 : 8 系統 / 最大制御数 256 台 (1 系統 / 32 台)

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”を使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://tascam.jp/jp/login>

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Apple、Mac、Mac OS、macOS、iPad および App Store は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Neutrik および etherCON は、Neutrik AG の登録商標です。また、powerCON および TRUE1 は、Neutrik AG の商標です。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人（専門業者）が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本機の動作保証温度は、摂氏 -15 度～55 度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店 / ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター（巻末に記載）が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番（VIO S218）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

本機の概要

dBTechnologies VIO S218は、Digipro G4アンプ(クラスD)を2基搭載したアクティブ バスレフ セミホーンロード サブウーファーです。

最適な音響効果が得られるようバスレフ方式による2個の18インチウーファー(4インチ ボイスコイル採用)にセミホーンロードを組み合わせて、近距離でもバランスの良い低域を再生します。

複数の本機を組み合わせた場合には、指向性をコントロールでき、様々な用途に対応できます。

DSPによって制御されるDigipro G4アンプを2基搭載し、カーディオイドやエンドファイヤーといった様々な設置方法で、再生音を自在にカスタマイズ可能です。また、VIOラインアレイと組み合わせた場合、多くの構成や設置に対応可能です。

- 本機は、クラスDのDigipro G4アンプを2基搭載し、最大音圧レベルで[SPL143dB]、RMS出力で[合計3200W]を出力します。
- 高品質な18インチウーファーユニットを2個搭載。
- 本体に取付ポイント(2箇所)を装備し、別売りの吊り下げフレーム(フライバー DRK-210/DRK-212)を使って、VIO L210またはVIO L212を最大1~4台(*)まで、本機の上に設置することができます。

※ ご使用状況により、本機上に設置可能な台数が異なります。

[本機を1台で、フライバー DRK-210を使用時]

- ・ VIO L210搭載可能数：最大4台

[本機を1台で、フライバー DRK-212を使用時]

- ・ VIO L212搭載可能数：最大3台

また、本機をカーディオイド(段積み)で使用する際には、無料のdBTechnologies Composerソフトウェアを使用すると、本機上に設置する構成に応じた数量を確認できます。

(dBTechnologies Composerソフトウェアについては、13ページ「dBTechnologies Composerソフトウェアについて」を参照)

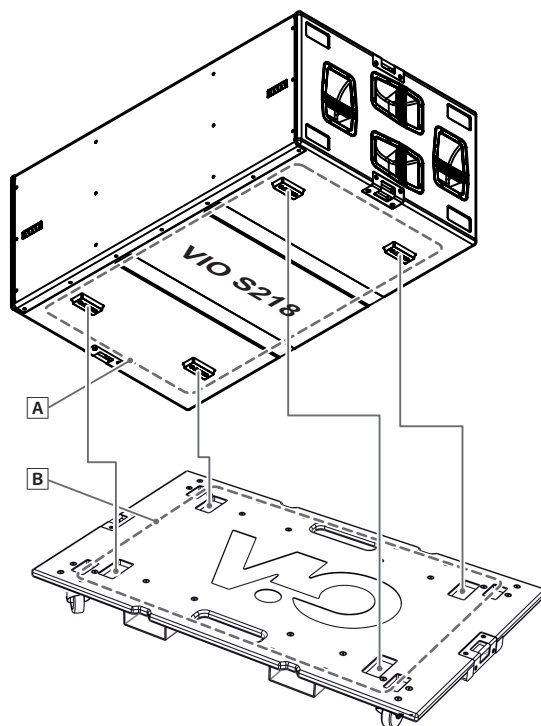
- DSP制御によるPolarity切替とディレイ、クロスオーバー周波数調整によって、最も適切な設定(エンドファイヤー、カーディオイド)にチューニングして、あらゆる状況で、最適な指向性を得ることができます。
- 入力信号へのハムノイズ侵入などの、障害を完全に排除するADCフローティングテクノロジー採用しています。
- RDNet接続(*)や無料のコントロールソフトウェアdBTechnologies AURORA NET(*)によって、PCからのリモートコントロールが可能となり、使用環境に応じたDSPプリセットをカスタマイズすることができます。

※ 別売りのリモート機器[RDNet Control 2]または[RDNet Control 8]が必要になります。詳細は、リモート機器の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(14ページ「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」、「AURORA NETソフトウェアのダウンロード」を参照)

専用台車による本機の運搬

別売りの専用台車(トローリー DO VIOS218)を使用すると、本機を3台まで運搬可能です。

- 本機のフット部分(下図 A)を台車の指定場所(下図 B)に合わせて、静かに載せます。



- 下図は、本機を3台まで積み上げた状態です。



注意

本機を段積みして運搬する場合、安全のためにストラップで台車に固定してください。

設置方法

電源を入れる前に、必ず本機の **Subwoofer Attenuation**(※) のレベルが **[Mute]** 位置であることを確認してください。

また、本機に接続している音源側の機器の音量も最小にして下さい。

その後、**FULL RANGE MAINS INPUT** 端子に Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードが正しく接続され、電源供給が行われているか確認してください。(各端子類や操作部については、**9 ページ「各部の名称」**を参照してください。)

※ 本機の背面にある [入力感度調節ボリューム名]

各端子類や操作部については、**9 ページ「各部の名称」**、電源コードや各ケーブルの接続方法については、**11 ページ「電源および外部機器との接続」**を参照してください。

注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。
(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 誤った方法で本体のハンドルや取付ネジ穴を使用して、本機器を設置したり、吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。
(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを重ねる場合、指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

エンドファイヤーとカーディオイドの構成

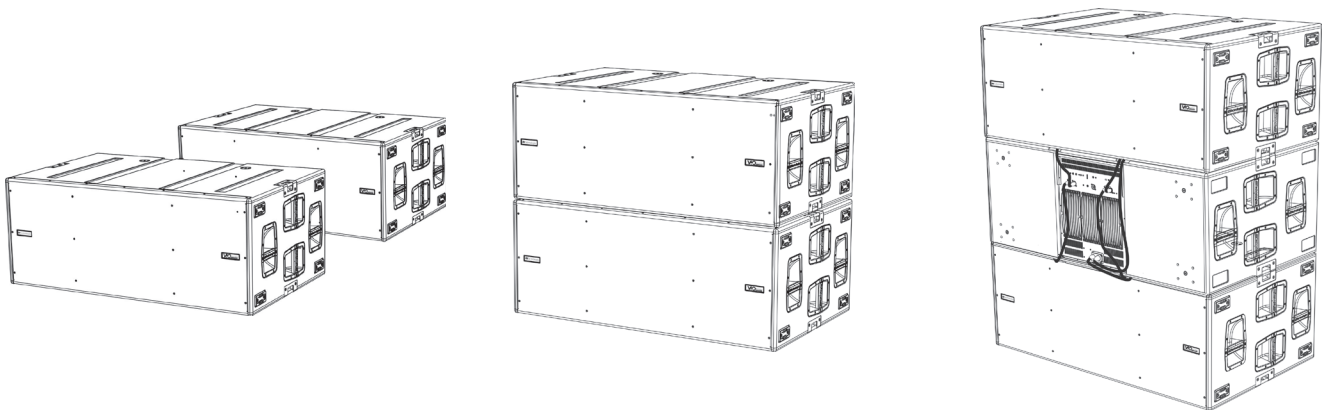
平置きまたは段積み

VIO S218は、エンドファイヤーとカーディオイド(※)の構成で、床置設置することができます。

平置きエンドファイヤー 設置例

段積みカーディオイド 設置例 1

段積みカーディオイド 設置例 2



※ 3台(上図の「段積みカーディオイド設置例2」)によるカーディオイド構成時は、中央のサブウーファースの **Cardioid preset** スイッチをオンにして、**Cardioid preset** の値を有効にしてください。**Cardioid preset** が有効になると、**Active LED** が点灯します。
(**Active LED** が点灯中は、**Cardioid preset** の値を優先して、ディレイと **Polarity** の設定は使用されません。)

メモ

dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用すると、推奨値を算出できます。

注意

安定した設置のために、平らな床に設置してください。また、本機を段積み設置する場合、安全のためにストラップで固定してください。

フライバーを使用して VIO モジュールの床置設置

本機の上に別売りの吊り下げフレーム（以降、「フライバー DRK-210」または「フライバー DRK-212」と称します）を使って、最大1～4台までの VIO L210または VIO L212を床置設置することができます。

- フライバー DRK-210使用時

[本機を1台で使用の場合]

- VIO L210 搭載可能数：最大4台

[本機を2台（カーディオイド構成）で使用の場合]

- VIO L210 搭載可能数：最大2台

- フライバー DRK-212使用時

[本機を1台で使用の場合]

- VIO L212 搭載可能数：最大2台

[本機を2台（カーディオイド構成）で使用の場合]

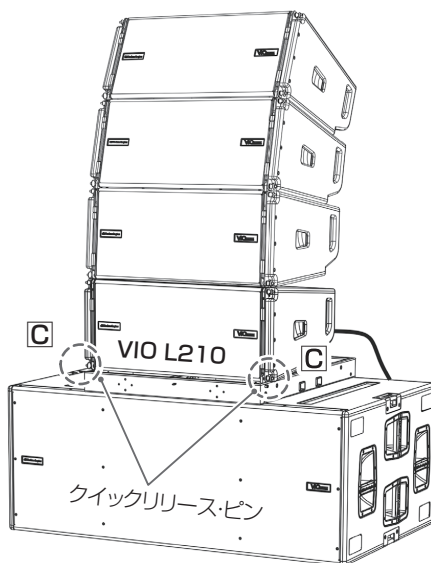
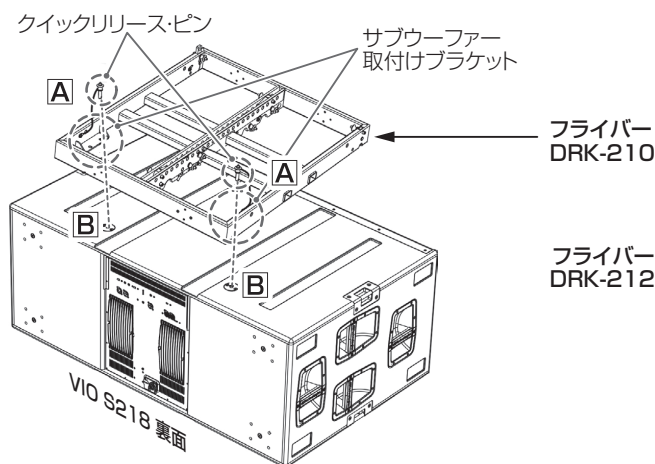
- VIO L212 搭載可能数：最大1台

注意

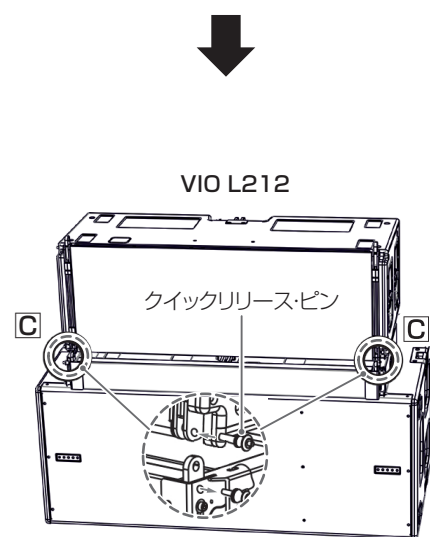
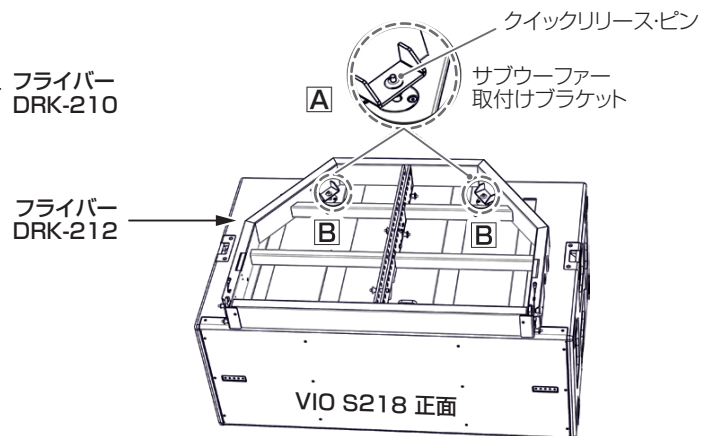
フライバーの使用方法は、アクセサリの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。（→ 14ページを参照）

1. フライバーのサブウーファー取付けブラケット（下図 A）の穴を本機上面の取付け穴（下図 B）に合わせて、下図を参考にクイックリリース・ピンで、フライバーを固定します。
2. フライバーに VIO L210または VIO L212を取り付けます。
取付け方法は、VIO L210または VIO L212の取扱説明書を参考に取付けてください。

フライバー DRK-210の取付け例



フライバー DRK-212の取付け例

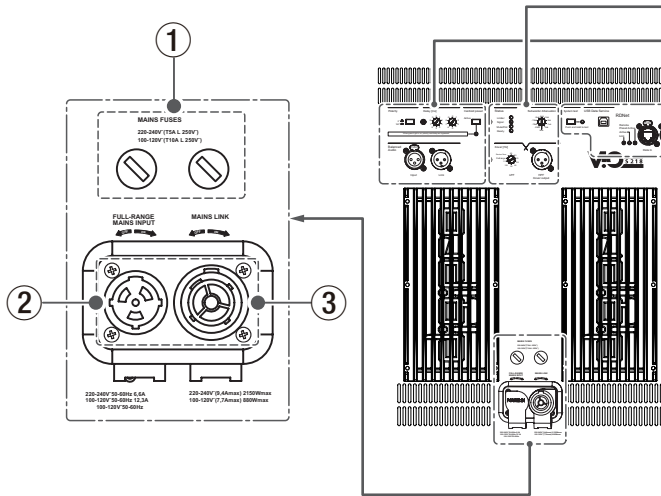


注意

本機に VIO L210または VIO L212とフライバーの連結が完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。

各部の名称

電源パネル



① MAINS FUSE

第1、第2アンプ用フューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。

② FULL-RANGE MAINS INPUT

AC 電源 端子 (Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子)

付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードを接続します。

電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の **Subwoofer Attenuation ⑫** (入力感度調節ボリューム) のレベルが **[Mute]** の位置にあること、また音源側の機器の音量が最小であることを確認して下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

③ MAINS LINK

電源リンク 端子 (Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子)

他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子です。

電源 LINK ケーブルを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

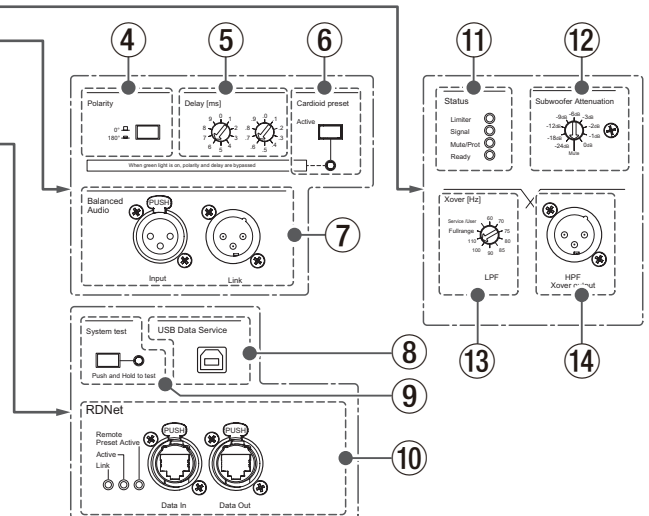
ご使用時は、専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル（別売り）をお使いください。

MAINS LINK (電源 Link 端子) の最大供給電流は、下記の表に記述してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができます。

MAINS LINK 端子の最大供給電流 (AC100-120V 時)

max 7.7 A / 880 W

コントロールパネル



注意

- 専用の電源 LINK ケーブル以外の接続で、他のアクティブスピーカーなどに電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破損する恐れがあります。
- 最大供給電流を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- Neutrik 社製のケーブルについては、タスカム カスタマーサポート（巻末に記載）にご相談ください。

④ Polarity

Polarity(極性) スイッチ (OFF : 0° / ON : 180°)

本機の極性を0度、または180度反転する場合に選択するスイッチです。ラインアレイモジュール構成で極性を調整する際に使用します。

本機を複数台設置する際やラインアレイモジュール構成で極性を調整する際に使用します。

⑤ Delay [ms]

ディレイ調整

本機から再生される音のディレイ値を2つのロータリースイッチで、[0~9.9] ms の範囲で調整します。

- ロータリ エンコーダー : 左側 [0~9] ms / 右側 [0~0.9] ms

ディレイ値の設定は、例えばロータリ エンコーダーの左側を [5] に設定し、右側を [.5] に設定した場合、ディレイ値は [5.5] ms になります。

⑥ Cardioid preset

カーディオイド設定スイッチ

このスイッチをオンにすると、本機に設定してあるカーディオイド設定で動作します。

動作中は、**Active LED** が点灯します。

- **Active LED** (緑色)

Active LED が点灯中は、本機のカーディオイド設定が優先され、**Polarity** と **Delay** の設定は、使用されません。

⑦ Balanced Audio

- **Input**

XLR バランス入力

XLR 端子によるアナログバランス入力端子で、ラインレベル (音源) のバランス信号入力が可能です。

注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

- **Link**

XLR バランス 出力

XLR 端子によるアナログバランス出力端子で、本機を複数台設置する際にデジチーチェーン構成で出力するオーディオ信号の接続や他のアンプ内蔵スピーカーにオーディオ信号を出力する際に使用します。

⑧ USB Data Service

サービスデータ 端子 (USB B タイプ)

本機の F/W をアップデートする際、使用します。

ダウンロード方法は、**14 ページ**「**F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)**」を参照してください。

⑨ System Test

- **Push and Hold to test**

内蔵しているスウィープ音を再生しスピーカーユニット出力の動作確認を単体ごとに実行できます。

このテストは、システムの統合性をくまなくチェックできるものではありませんが、様々な場面で簡易チェックを行うことができます。

⑩ RDNet (etherCON 端子)

データネットワーク接続の入出力用端子 (Neutrik 社製) です。

ネットワーク接続で各種設定を行うことが可能です。

(RDNet 接続時は、本体の **Polarity** ④、および **Delay** ⑤、**Subwoofer Attenuation** ⑫、**Xover** ⑬ の各設定値は、バイパスされ、RDNet ネットワーク経由での設定が優先されます。)

- **Data in**

別売りのネットワークコントローラー **RDNet Control 2** または **Control 8** に接続します。

- **Data Out**

本機を複数台設置する際やラインアレイ構成で他の RDNet 対応スピーカーにデジチーチェーン接続して使用します。

- **Link LED** (黄色)

RDNet ネットワークがデバイスを認識した場合に点灯します。

- **Active LED** (緑色)

RDNet ネットワーク上でデータの通信を行っている際、点滅します。

- **Remote Active Preset LED** (緑色)

本機が RDNet ネットワーク上で、制御 (リモートコントロール) されている場合に点灯します。

RDNet ネットワークの使用方法の詳細は、**14 ページ**「**リモート機器の取扱説明書ダウンロード先**」を参照してください。

⑪ Status LED

- **Limiter LED** (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点灯します。

(本機の不具合で停止した場合は、点滅します。)

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LED が連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷をかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- **Signal LED** (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅し、適正な入力信号時のみ点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

- **Mute/Prot LED** (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、**Mute/Prot LED** (黄色) が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

- **Ready LED** (緑色)

正常に状態で動作している時に点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑫ Subwoofer Attenuation

入力感度調節ボリューム

アンプ部に入力する信号の感度を調整します。

電源を投入する前は必ず、**[Mute]** に設定してください。

⑬ Xover [Hz]

クロスオーバー設定 (60 Hz ~ 110 Hz ~ フルレンジ)

HPF Xover output ⑭ 端子に接続された中高域用スピーカーとのクロスオーバー周波数 (9 種類) を選択できます。

また、**[Service/User]** の位置は、RDNet 接続で使用の際や USB 端子を使った F/W(*) の更新時にも使用します。

※ F/W の更新については、**14 ページ**「**F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)**」を参照してください。

⑭ HPF Xover output

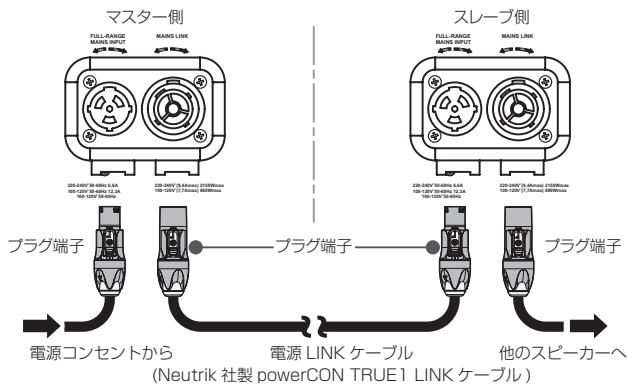
ハイパスフィルター付きクロスオーバー出力

Xover [Hz] ⑬ で設定したクロスオーバー周波数を他のアンプ内蔵スピーカーにフィルタリングして出力 (XLR バランス) します。

電源および外部機器との接続

本機は、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー（マスター側）から2台目以降のスピーカー（スレーブ側）にデジチェーン接続で供給することができます。

電源と電源リンクの接続



電源の接続

本機の **FULL-RANGE MAINS INPUT** ② (AC 電源 端子) に、付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードを接続し、プラグ端子を時計回りに回転させ、ロックしてください。ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の **Subwoofer Attenuation** ⑫ (入力感度調節ボリューム) のレベルが **[Mute]** の位置にあること、また音源側の機器の音量が最小であることを確認して下さい。
- 電源コードは必ず、付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードをご使用ください。また、電源 LINK ケーブルも必ず、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) をお買い求めの上、ご使用ください。それ以外のコードやケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。(弊社は、不適切なケーブルやコード類またはアクセサリの使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたコードやケーブルは、新しいものと交換してください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 濡れた手または、機器や電源コード (または電源 LINK ケーブル) が濡れた状態で、絶対に電源コードやケーブルの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

電源リンクの接続

MAINS LINK ③ (電源 Link 端子) は、マスター側からスレーブ側に専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) を使って、デジチェーン接続が可能です。

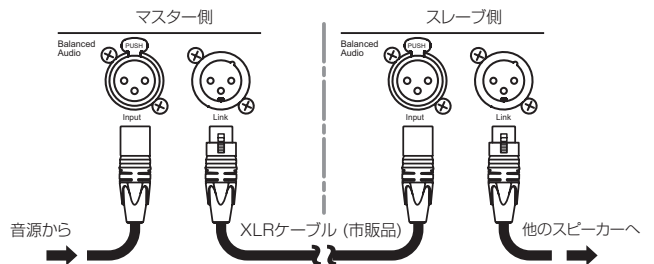
- まず、マスター側の本機の **FULL-RANGE MAINS INPUT** ② に、付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。
 - 次に、専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) で、マスター側の **MAINS LINK** ③ とスレーブ側の **FULL-RANGE MAINS INPUT** ② に接続します。
- 上記の接続を繰り返し、マスター側の **MAINS LINK** ③ の下側に記載された最大供給電流に達するまで、スレーブ側のスピーカーを接続することが可能です。

オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、マスター側からスレーブ側へ送出することができます。

この接続を行うには、まず音源機器からマスター側のバランス入力 (**Balanced Audio Input** ⑦ 端子) に接続した後、バランス XLR ケーブル (市販品) を使ってマスター側のバランス出力 (**Balanced Audio Link** ⑦ 端子) とスレーブ側のバランス入力 (**Balanced Audio Input** ⑦ 端子) に接続します。

この接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができます。スピーカー配置に沿った接続が可能です。



注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にしてください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

RDNet の接続

本機を RDNet 接続でリモート操作をする場合、**Xover [Hz]** ⑬ スイッチを **[Service/User]** の位置にセットします。

次に、別売りのネットワークコントローラー (**RDNet Control 2** や **RDNet Control 8**) を使用して、制御したいスピーカーの **Data In** 端子 (etherCON 端子) にコントローラーからの LAN ケーブル (市販品) を接続します。

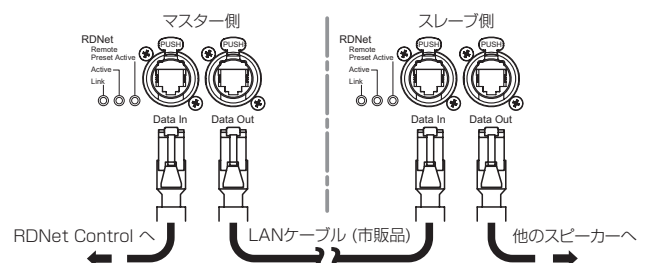
RDNet で複数機を制御する場合、マスター側の **Data Out** ⑩ 端子からスレーブ側の **Data In** ⑩ 端子に LAN ケーブル (市販品) で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のラインアレイ構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2** : 1 ch/32台 × 2ch 最大64台
- RDNet Control 8** : 1 ch/32台 × 8ch 最大256台

RDNet ネットワーク上に接続した機器が認識された場合、**Link LED** が点灯します。



注意

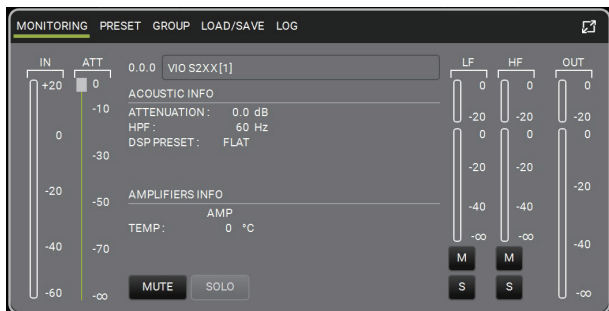
本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整 / DSP 等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体でのローカル設定は、使用されません。)

RDNet ネットワークの使用の詳細は、14 ページ「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

リモートコントロール

無料の **AURORANET** ソフトウェアを使用して、**RDNet** 接続による本機のパラメーターをリモートコントロールで設定可能です。

- パラメーター設定は、**RDNet** 接続が正しく行われた後、**AURORANET** ソフトウェアを使用することで、本機で設定するよりも、多くのパラメーターをリモートコントロールで設定できます。
- **RDNet** と **AURORANET** ソフトウェアによるリモートコントロールの場合、本機のローカル設定はバイパスされ、**AURORANET** ソフトウェアによってすべて制御されます。



パラメーター設定画面

AURORANET ソフトウェアの使用の詳細は、13 ページ「**AURORA NET** ソフトウェアについて」を参照してください。

注意

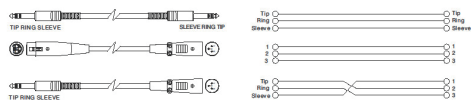
本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整/DSP 等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体でのローカル設定は、使用されません。)

設置前に本機およびシステム全体のスピーカーのパラメーターを物理的に複製保存することをお勧めします。

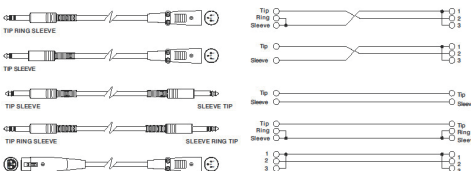
適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



アンバランスケーブル



注意

- ケーブルの接続 / 取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

スピーカーの電源が入らない

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードおよび Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルのプラグ端子が、しっかり接続されて、時計回りにロックしているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない

- 各入力端子が正しく接続されており、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードおよび Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルを使用されているか、確認してください。
- ケーブルに損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入力感度調節ボリュームを確認し、適正なボリューム位置に合わせてください。
(本機の **Subwoofer Attenuation** ⑫(入力感度調節ボリューム) の場所は、9 ページ「各部の名称」を参照してください。)
- **dBTechnologies COMPOSER** ソフトウェアを使って、システム構成や設置などプロジェクトが正しく設定されていることを確認してください。
- **RDNet** ネットワークに接続している場合は、**AURORA NET** ソフトウェア上で、**MUTE** 機能が無効になっていることを確認してください。

スピーカーからの音が歪んでいる、または十分な音量でない

- ディレイや Xover/Polarity スイッチがシステムの構成に適切な設定になっているか確認してください。
- **Subwoofer Attenuation** ⑫(入力感度調節ボリューム) 位置を適切な値に合わせてください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、新しいケーブルと交換してください。
(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは、新しいものと交換してください。)
- **RDNet** ネットワークに接続している場合は、**AURORA NET** ソフトウェアから、全てのパラメーターが適切な値に設定されていることを確認してください。
(本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定は、バイパスされますので、注意してください。)

Mute/Prot LED (黄色) が点灯した場合

本機に不具合が発生した場合、**Mute/Prot LED** (黄色) が点灯し、音量がミュートします。

その場合、以下の項目をチェックしてください。

- 本機が正しく電源に接続されているか確認してください。
- 電源から適切な電圧が、供給されているか確認してください。
- アンプ部が過熱していないか確認してください。

これらのチェックをした後も、**Mute/Prot LED** (黄色) が消えない場合、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にお問い合わせください。

dBTechnologies Composer ソフトウェアについて

VIO シリーズをお使いになる場合に、無料の dBTechnologies Composer ソフトウェアを併用されることをお勧めします。

このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するための本機やラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。

また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、**フライバー DRK-210/DRK-212**の静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができ、ラインアレイモジュール設置の安全性を確認できます。

dBTechnologies Composer ソフトウェアのダウンロードは、**14 ページ「dBTechnologies Composer のダウンロード」**を参照してください。

dBTechnologies Composer の主な構成

- **Composer** : 設計データ入力 of 概要
- **LAs Predict** : ラインアレイの安全性チェック、構成、およびシミュレーション
- **SUBs Predict** : サブウーファの安全性チェック、構成、およびシミュレーション

この章では、dBTechnologies Composer を使用した本機の設置とラインアレイモジュールを組み合わせた場合の安全性に関する説明になります。

- **LAs Predict** セクションには、VIO システムの適切な構成や、床置設置時に必要な全ての情報が含まれています。
- これらを利用するには、まず **Composer** セクションに含まれるプロジェクトのデータを入力する必要があります。
- システムデータの **SUBs Predict** サブページには、さまざまなモジュールの角度調整や DSP プリセットに関する様々なパラメーター、フライバーの角度調整など参考値があります。

これらの値を参考に、本機のパラメーターを設定してください

また、ラインアレイモジュールなどの最終的な角度は、**フライバー DRK-210/DRK-212**の取扱説明書(※)に記載されているように、レーザー傾斜計を使用して現場で検出することができます。

※ **フライバー DRK-210/DRK-212**や設置用アクセサリーの詳細については、**14 ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」**から対象のアクセサリー取扱説明書をダウンロードして参照してください。

AURORA NET ソフトウェアについて

無料の **AURORA NET** ソフトウェアを使用して、**RDNet** 接続による本機のパラメーター(※)をリモートコントロールで設定可能です。

※ パラメーター設定は、**RDNet** 接続が正しく行われた後、**AURORA NET** ソフトウェアを使用することで、本機で設定するよりも、多くのパラメーターをリモートコントロールで設定できます。

AURORA NET ソフトウェアのダウンロードは、**14 ページ「AURORA NET ソフトウェアのダウンロード」**を参照してください。

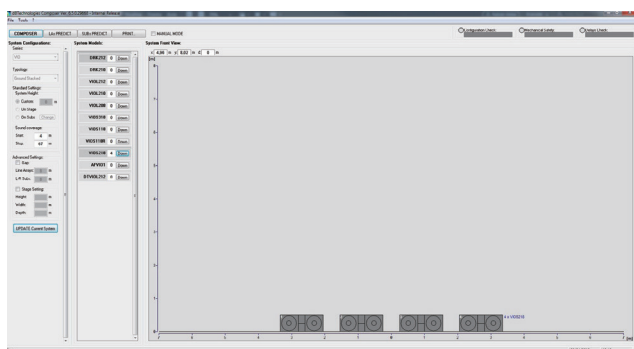
AURORA NET の主な特長

- マルチプラットフォーム設計 (Windows、mac OSX)
- 動作中にパラメーターとその履歴をより正確に制御可能
- さまざまなプリセットを呼び出し可能
- 軽快な動作によるデータ表示と最適化された使いやすさ
- **RDNet** を使用したネットワーク機器の制御

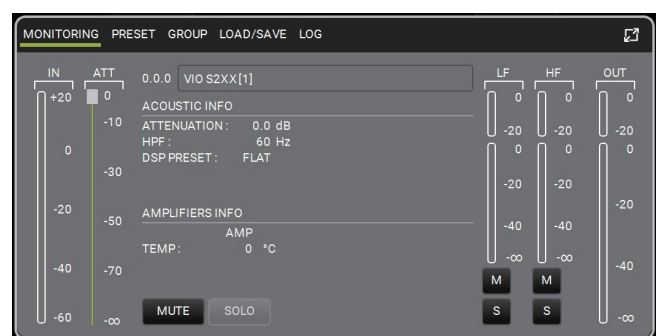
RDNet Control 2および**RDNet Control 8**で構成されたシステムをネットワーク(**RDNet** ネットワーク)上で認識し、オンライン作業が可能です。

- オフライン作業でプロジェクトの管理が可能

オフラインでプロジェクトの作成 / 編集 / 保存を行い、固定設備やライブ会場などでプロジェクトの読み込み / 更新が可能です。



dBTechnologies Composer 画面



AURORA NET 画面

各種ダウンロード

AURORA NET ソフトウェアのダウンロード

ダウンロードとインストール方法

まず、dBTechnologies のウェブサイトで、お客様のユーザー登録 (→ **5ページ**を参照) を行ってください。

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

ダウンロード

ログイン後、dBTechnologies の下記ウェブサイトで本ソフトウェアをダウンロードできます。

- <http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx> ダウンロードページから "Software&Controller" の項目を開いて、上段の "Software" の列から Windows または Mac OS の圧縮ファイル (Zip 形式) 選択すると、MY DOWNLOAD ページに移動します。

そのページから目的のファイル選択して、圧縮ファイルをダウンロードしてください。

インストール

- Windows
ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、自己解凍型のファイルを開き、現れたフォルダー内の setup.exe ファイルを開いてください。
- Mac OS
ダウンロードしたディスクイメージを開き、AURORA NET のアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグしてください。

注意

ソフトウェアをダウンロード中は、PC の電源を切らないでください。故障の原因になります。

dBTechnologies Composer のダウンロード

dBTechnologies 社の下記ウェブサイトより、ソフトウェアをダウンロードできます。

<http://www.dbtechnologies.com/es/downloads.aspx> ダウンロードページから Software & Controller の項目を選択し、下記ファイルをダウンロードしてください。

- セットアップファイル
"dBTechnologies_Composer_setup_x.x.x.zip"
- ソフトウェア取扱説明書
"Manual-dBTComposer_REVx-x.pdf"

解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologies 社のウェブサイトのダウンロードページから、"Installation" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となるアクセサリーの PDF ファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

F/W アップデート

(USB Burner Manager ソフトウェア)

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的に dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/W の更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

1. 上記の Download ページから "Software & Controllerr" を開いて、[USB BURNER MANAGER] ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
2. 上記の Download ページから "VIO" を開いて、上段の "Firmware" の列と対象となる "VIO" 機種の中から、最新の F/W (zip 形式) をダウンロードしてください。
ダウンロード後、解凍してください。
3. 本機とパソコンを USB ケーブル (別売り社外品) で接続してください。
本機の通信用 USB 端子は、**9 ページ**「各部の名称」を参照してください。
4. [USB BURNER MANAGER] ソフトウェアを起動し、画面右上から、"File Opening..." を選択してください。
5. 先程ダウンロードした F/W を選択してください。
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
6. UPDATE をクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

注意

F/W アップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologies 社のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前 PDF ファイルをダウンロードしてください。

● 取扱説明書

- RNet Control 2
"RNet CONTROL 2_cod420120189_Revx.x-MAN.pdf"
- RNet Control 8
"RNET CONTROL8_cod420120183_Revx.pdf"

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AEB INDUSTRIALE s.r.l. に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

仕様

形式

アクティブ サブウーファー

スピーカーユニット

LF : 18インチ (4インチ ボイスコイル) ×2
指向性 : 無指向性

アンプ部

形式 : Digipro G4クラス D ×2
ピーク出力 : 6400 W
RMS 出力 : 3200 W
冷却システム : 自然対流式 + 内蔵ファン

DSP 部

コントローラー : DSP 32 bit
AD/DA 処理 : 24 bit/96 kHz
リミッター : ピーク、RMS、サーマル
ディレイ調整 : [0~9.9] ms (0.1 刻み)
コントロール : 入力感度調節ボリューム ×1
エンコーダスイッチ ×3 (Delay/Xover)
カーディオイド スイッチ
Polarity スイッチ

音響データ

周波数特性
[-6 dB] : 28 Hz ~ (X-Over 周波数に依存)
[-10 dB] : 27 Hz ~ (X-Over 周波数に依存)
最大 SPL : 143 dB (max)
クロスオーバー周波数
Low/High : 60 Hz ~ 100 Hz +フルレンジ
(選択方式、24 dB/Octave)

外部入力

Input 端子 : XLR 端子 (メス) ×1 (バランス)
USB 端子 : B タイプ ×1
RDNet 端子 : etherCON 端子 ×1

外部出力

Link 端子 : XLR 端子 (オス) ×1 (バランス)
HPF Xover 端子 : XLR 端子 (オス) ×1 (バランス)
電源 Link 端子 : powerCON TRUE1 端子 ×1 (Neutrik 社製)
(最大供給電流 : 7.7 A/880 W)
RDNet 端子 : etherCON 端子 ×1

一般

電源

電圧 : AC100 V ~ 240 V (自動切替式)、50/60 Hz
電源端子 : Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子

注意

日本国内においては、AC100 V のみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

100 ~ 120 V 時 : 5 A (通常 1/8 出力時) ※1
100 ~ 120 V 時 : 12.3 A (最大 1/3 出力時) ※2

消費電力

53 W ※3

※ 1: 通常の使用状況で、フルパワー出力の 1/8 の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態) い
かなる構成時でもこれを最小値としてください。

※ 2: 通常の使用状況で、フルパワー出力の 1/3 の場合の消費電
力 (音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に
発生する状態)
プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジング
を決めてください。

※ 3: 電源オンで入力信号がない時

突入電流

3.7 A

外形寸法

幅 × 高さ × 奥行き (突起部を含まず)
1300 × 520 × 800 mm

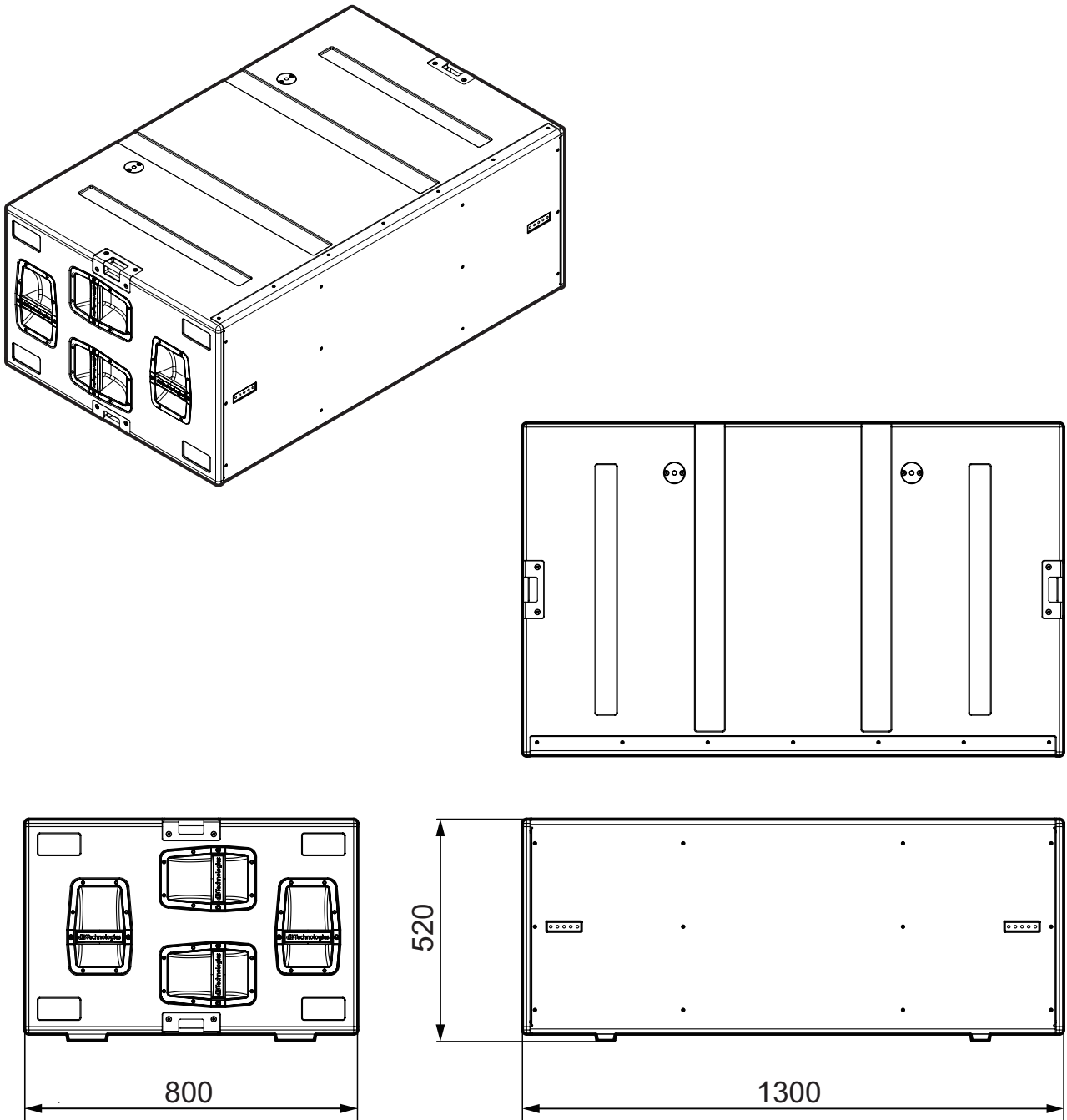
質量

85.6 kg

動作温度

-15°C ~ +55°C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



無料修理規定（持ち込み修理）

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼に出来ない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続しているほかの機器に起因する故障および損傷

- (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
- (6) メンテナンス
- (7) 本書の提示がない場合
- (8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名（印）の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ


※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは


タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

- 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP電話から
- ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から
- FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00～12:00/13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

- 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP電話から
- ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から
- FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

保証書

品名	dBTechnologies	
型番	VIO S218	
保証期間	本体	
お買い上げ日		
お客様	お名前	
	ご住所	

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	見本	

お客様は、本書記載の保証書およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

0220 MA-3079A